

第8回 作業療法ジャーナル研究助成・研究結果報告

「特別支援学校で働く教員の専門性とは」研究結果報告



小林 郁氏

小林 郁

(神奈川県立相模原中央支援学校、作業療法士)

近年、特別支援学校にかかわる OT は増加しております。私もその一人で、日々学校で働く中で、教員の特性を感じる場面があり、教員の仕事が OT の仕事に共通している部分と異なる部分があるのではないかと考えました。そこで、互いの専門性を明らかにすることで協業がしやすくなるよう、特別支援学校教育に従事する教員の専門性を探るという研究に至りました。

本研究では、同意を得られた特別支援学校教員 10 名を対象に、教員に至る経緯から教員としての生活の中で大切にしてきたことやエピソード等を半構成面接で聞き取り、逐語録を作成しました。この逐語録をグラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を参考に分析し、教員の専門性について考察しました。

結果、対象とした教員は経験 10～30 年以上と幅広く、経歴も始めから特別支援教員を志していた方から、通常教育の世界から特別支援教育にたどり着いた方など、さまざまでした。今回のインタビューでは、言葉としてはバックグラウンドにある知識や技術についての共通する専門性を明示することはできませんでした。しかし、教員の中で一貫したスキルというものよりも、一つひとつのエピソードを大切にした経験知をベースとしていることがわかり、そこから特別支援教育に従事する教員の専門性の確立がなされていることを背景として見いだすことができました。

今回の研究で得られた結果を日々の実践に活かし、今後も研究と考察を続けていきたいと思っています。